

まちづくり通信

- 山鹿協同隊会報 - No.1

号数 No.1 発行日 1999.1.1
 編集発行 山鹿協同隊
 (中心市街地活性化基本計画
 策定ワーキンググループ)
 連絡先 山鹿市役所商工観光課
 T E L 0968-43-1111 (内線 161)
 F A X 0968-43-8795
 E-mail; yamaga@yamaga.org

中心市街地活性化に関連する メンバーの紹介

中心市街地活性化対策の積極的推進を図るため市役所内に本部を設置しました。

山鹿市中心市街地活性化対策 推進本部メンバー (本部: 22名)

本部長 市長
 副本部長 助役
 本部員

収入役・教育長・総務企画部長・市民部長・健康福祉部長・産業振興部長・建設部長・産業振興部首席審議員・建設部首席審議員・企画調整課長・総務課長・財政課長・福祉課長・いきがい推進課長・農政課長・建設課長・都市計画課長・生涯学習課長・文化課長・スポーツ振興課長

専門部会: 12名 専門委員

有働博(企画調整課) 幸村英星(財政課)
 江口なおみ(福祉課) 奥村正文(いきがい推進課)
 大坂憲二(農政課) 緒方淳一(建設課)
 長迫三紀夫(都市計画課) 大坂栄一(都市計画課)
 中原忍(都市計画課) 角田頼子(生涯学習課)
 木村理郎(文化課) 中川秀人(スポーツ振興課)

山鹿市中心市街地活性化基本計画 策定委員会委員

学識験者 (委員長) 田中昭四郎
 山鹿商工会議所会頭(副委員長) 村上 長行
 山鹿市議会経済観光委員会委員長 阿蘇品邦雄
 山鹿温泉観光協会会長 荒木 祥之
 山鹿市囁託員連合会会長 原口 義臣
 山鹿商店街連盟会長 水上 弘毅
 山鹿市連合婦人会会長 松本 梅香
 山鹿市老人クラブ連合会会長 吉井大四良
 消費生活地域相談員 渡辺 公子

山鹿市文化協会会長 中満 重明
 鹿本農業協同組合理事 瀬口 智學
 熊本県ハンドボール協会副会長 井 薫
 建設省菊池川工事事務所所長 松石 忠俊
 熊本県商工政策課長 片岡 楯夫
 熊本県鹿本事務所所長 森枝 俊郎
 鹿本県山鹿土木事務所所長 根占 成敏
 山鹿市教育長 中原 哲哉
 山鹿市総務企画部長 永田 忠晴
 山鹿市市民部長 三宅 喜代瑞
 山鹿市健康福祉部長 木庭 俊樹
 山鹿市建設部長 松永 孝雄
 山鹿市産業振興部長 田中 伸也

ワーキンググループ班員

山鹿青年会議所(班長) 本山 幸嘉
 住民代表 堀 洋子 住民代表 堀川武治
 住民代表 新 明義 若者代表 伊藤伸一
 若者代表 山下純子
 一般消費者 肘井 良子
 山鹿市旅先案内人の会会長 富田 正明
 山鹿商工会議所青年部 松下 倫己
 山鹿商工会議所婦人会 山田ゆき子
 建築士会(まちづくり景観研究部会) 河田 久徳
 山鹿校区校区長 鶴 千年
 山鹿市連合婦人会 荒木 光子
 山鹿温泉観光協会旅館部会 松岡 靖人
 山鹿市農業後継者クラブ会長 堤 政博
 山鹿の歴史に親しむ会 坂本 正幸
 山鹿八千代座棧敷会 城 恵一
 大型店代表(サンリブ山鹿店長) 福山 健治
 J A 鹿本・営農企画課長 井上 義郎
 商店街代表(九日町商店街) 中島 清
 商店街代表(中町商店街) 本田 幸嗣
 商店街代表(協同組合山鹿温泉商店街) 樋口 誠祐
 商店街代表(バスターミナル通り振興会) 徳永 龍二
 建設省菊池川工事事務所調査課長 掟 満則
 熊本県商工政策課主任主事 宮田 哲男
 熊本県地域政策総室主任技師 渡辺 陽司

熊本県鹿本事務所総務振興課企画振興係長 古森美津代
熊本県土木事務所総務課景観建築係長 米村 幸次

市民サポーター 11 名

荒木伸一郎	落合克典	金木賢治
吉良糸子	黒田一男	杉尾貞利
竹下浩一	前川幸恵	三浦貴子
村上由香	山田幹夫	

市職員（専門部会員）12 名

山鹿市中心市街地活性化対策推進本部
メンバーを参照して下さい

* 順不同。敬称は略させていただきました。

役の際、西郷軍に呼応して、熊本の保田窪神社で、山鹿の大森惣作が軍資金を出し、植木学校の参加者を中心に平川惟一・宮崎八郎・山鹿の野満兄弟等によって挙兵した集団です。彼らは、西郷軍と同じ思想ではなく、ルソーの民約論(中江兆民訳の時代)に基づいた政府の樹立を考えており、最終的には、西郷隆盛とも対決する覚悟をもっていたといわれます。ちなみに、この時期に呼応した土族や豪農商達は、明治新政府に対しての反感から西郷軍と共に闘った場合がみられ、たとえば、学校党の流れをくむ熊本隊などその思想的背景は様々でした。

当時、山鹿を含め県内の農民の間には、地租改正入費や民費に不満が高まり、その一連の流れで、戸長征伐が行われており、西郷軍の蜂起は、山鹿白石村(現 古閑)野満長太郎(植木学校参加者で、従軍した野満兄弟の兄)らによる、光専寺 1 万人集会が行われた直後にあたります。

このため、薩軍が挙兵し山鹿を占拠した際に、ともに山鹿にまで進んできた熊本協同隊は、この山鹿の地に日本で初めて、彼らの理想に基づき民権政府とも言うべき組織を樹立させることができました。そして、人民総代が作られ、野満長太郎が民政官として山鹿の長となったわけです。ただし、これは、軍事占領下で、薩軍が退却するまでのほんの一時の民主制に過ぎませんでしたし、現在の民主制度とは異なるものでした。しかし、彼らにとっては、理想に向けての第一歩でありました。

(敬称略)

「山鹿協同隊」の由来

ワーキンググループの俗称は、「山鹿協同隊」と決定されました。この由来となった「熊本協同隊」は、120年前、自由民権運動の魁として先進的な思想と積極的な行動力で激動する時代に果敢に挑戦した彼らの生き方に対し共感と誇りを感じこの名称になりました。

私たちは、山鹿の新しい流れを少数の指導者に委ねて次の展開を待のではなく、『私たちの、私たちによる、私たちの山鹿』を基本に個人の行動からなる運動を通じて、自分たちの手で新しい未来の山鹿を勝ち取るため行動しようと考えています。

さて、熊本協同隊とは、明治10年の西南の

